

事故、飲酒運転追放へ 市交通指導隊の初点検

市交通指導隊（熊谷好行隊長）の初点検式は1月8日、市役所正面玄関前で行われました。雪の降る中、隊員18人のほか山内隆文市長、及川優晴久慈警察署長などが出席。熊谷隊長の号令で、手帳や警笛などの確認を行いました。山内市長が「健康に留意し、活動をしてもらいたい」と訓示。熊谷隊長が「交通ルールやマナーを徹底し、交通事故や飲酒運転を追放したい」と決意を表明しました。終了後、隊員は交通指導車で市内を巡回。交通安全を呼び掛けました。



熊谷隊長（右）と装備を点検する山内市長

地域の孫への贈り物

西の沢老人クラブさつき会がぞうきん寄贈

西の沢老人クラブさつき会（野場良治会長）から12月17日、久慈小学校（菅原末広校長、児童756人）にぞうきん100枚が寄贈されました。ぞうきんは、会員有志が1年4カ月掛けて縫ったもので、菊地郁子副会長は「ぞうきんは、（地域の）孫たちへの贈り物。達成感でいっぱいです」と笑顔を広げます。ぞうきんを受け取った児童会美化委員長の柏木聖哉君（6年）は「このぞうきんで小学校をきれいにしたい」と感謝していました。



児童に笑顔でぞうきんを手渡す菊地副会長（左）

うどんの味と歴史を堪能 手打ちうどん作り教室を開催

手打ちうどん作り教室が12月27日、市内の小中学生約25人が参加して、山形老人福祉センターで開催されました。市生活研究グループ連絡会（川口キクエ会長）が指導し、うどんを伸ばしたり、切ったりする作業を体験。ゆであがったうどんを食べながら、うどんの歴史などの話を聞くなどして交流しました。そば打ちをやったことがあるという堀越大樹君（久慈小5年）は「伸ばすとき、やぶれてうまくできなかった」と悔しがっていました。



指導されながら、うどんを切る参加者



◀「お姉さんたちが楽しいお話しをしてくれるよ～」と絵本を広げると、興味深そうに話に聞き入る園児たち。美術部員たちも、読み聞かせることの楽しさでいっぱいの様子でした
▼主催した久慈青年会議所の皆さんと、協力した久慈東高校美術部の皆さん。絵本制作を通じて、自身のふるさとへの理解も深まりました



地域の“宝”が絵本に 青年会議所が久慈東高と協力し、絵本制作

（社）久慈青年会議所（新田宏和理事長）では、久慈東高校美術部の協力で絵本を制作しました。絵本を通して、地域にある“たからもの”を知り、郷土に愛情を持ってほしいと企画。同部の生徒は、絵本の題材探しのための勉強を5月から取り組み、実際に琥珀の学習や砂鉄の採取などを体験しました。保育園児も楽しめる愛らしい絵で、「おひさまいろのなみだ」「クジデサカナトレダスケ」など5冊の絵本が完成。同部の堀内葉留奈さん（同高3年）は「絵本を読んで久慈が好きになってもらいたい」と気持ちをこめました。

12月20日に門前保育園（宮澤憲司園長）で行われた絵本の贈呈式では、同部員が園児たちに感情をこめて読み聞かせを行いました。絵本は当初で各200部を製本。教育委員会や図書館、保育園や観光協会などに寄贈される予定です。

やあ！記念館で寒げいこ 三船十段記念館で寒げいこもちつき



力いっぱいもちをつく道場生たち

三船十段記念館道場では1月8日～11日、寒げいこを行いました。寒げいこは、寒さの中、毎朝6時～8時まで実施。12日には締めくくりとして、紅白試合ともちつきを行いました。もちつきには、保育園児から中学生まで約100人が参加。なかなか真ん中をたたけない道場生には「もっと思いっきりたたけ！」「そんなんじゃもちにならないぞ！」などとげきが飛ばされていました。出来上がったもちは、お雑煮やおしるこにされ、道場生たちが舌鼓を打ちました。

遠山誠志君（小久慈小5年）は「寒げいこは、寒い眠かったけどがんばった。今年は昇級を目指したい」と誓っていました。

たぐきりに笑顔咲く 大川目町田中寿会でたぐきり場を建設

大川目町の田中寿会（五日市一郎会長）が地域のたぐきり場（集会施設）として「田中町内会憩の場」を建設し12月29日、お披露目が行われました。建物の広さは約15㎡。元大工の会員4～5人が中心となって、地区の建築会社などから解体材を譲り受けて建設したものです。調理器具や茶わんなども各家から持ち寄ったもの。月に2～3回集まって、手打ちそばなどを食べて、たぐきりに花を咲かせます。会員の石川愛子さんは「たぐきりが楽しい。年下の人も気軽に来てほしいですね」と笑顔を広げます。五日市会長は「建設は、地域の若い人も手伝ってくれた。この場を使って、地域のつながりを深めたい」と目を細めていました。



くつろげる。ここに来るのが楽しみ！

子どもの味方の銀行登場 岩手銀行久慈支店にこども110番



使い方を訓練する児童と警察官

岩手銀行久慈支店（伊藤敏支店長）では12月25日、こども110番を設置しました。子どもなどが不審者に声を掛けられたりした場合、ATMに逃げ込んでボタンを押すと、入り口が閉まり、警備会社が状況に応じて警察に連絡する仕組み。この日は、近所に住む小学生約10人が参加し、模擬訓練を行いました。

犯人に扮した警察官に追われた子どもたちは急いでボタンを押し、「不審者に追われてきました」と通報。警備会社のオペレーターは映像と音声で状況を確認できます。訓練に参加した細谷地真里さん（久慈小1年）は「どういう風にすればいいか、わかった。家に帰ったらちゃんと親に教えたい」と話していました。